

# 就職活動中に女子学生の気持ちは どう揺れるのか

畑谷 圭子 (リクルートワークス研究所)

就職活動(以下就活)を終えた4年生の女子学生にインタビューを行ったところ、就活を通じて「どういった会社でどのような仕事をしよう」といったことで悩む傍らで、さまざまなことで気持ちが揺れ動いていた。中でも「働くのか、働かないのかといった揺れ」「総合職か一般職かといった働き方の揺れ」「あこがれの仕事と現実的な仕事の間での揺れ」の具体的な三種類の揺れがあり、揺れには働くための気持ちの準備が大きく影響していた。

**キーワード:女子学生の就活, 気持の準備, 総合職と一般職, あこがれと現実**

## I. はじめに

大学生の就職状況はここ数年概ね好調で、大卒求人倍率は2007年3月卒業で1.89%、2008年3月卒で2.14%と高く売り手市場で、「大卒者の採用見通し調査」では2009年3月卒の新卒採用は増えると答えた企業が18.0%と、減ると答えた企業の6.8%を大きく上回り、大卒者への積極的な採用意欲を感じる(いずれもリクルートワークス研究所調)。また「平成19年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」(厚生労働省)によると大卒者の就職内定率は88.7%で(前年同時期+1.0)、男女別に見ても、男子は89.2%(前年同時期+0.7)、女子は88.2%(前年同期+1.4)といずれも前年同時期を上回っている。

現在、大学のキャリアセンターで週に二回、エントリーシートを書き方や面接の仕方、自己分析など就活の相談を受けている。前向きに取り組む学生の指導をする一方で、就活にとまどいや不安を覚える学生からの相談も少なくない。中でも女子学生の傾向として、「エントリーシートが書けない」などで窓口相談に来て話を聞いていくうちに、「そもそもなぜ働かなければならないのか」「自分にあった働き方がわからない」「働くこと自体が

不安」など、その場の対応で済まない場合が多くある。女子学生は、就活というイベントに際して、さまざまな理由で気持ちが揺れている。

そこで、内定獲得前後までの就活を通じて女子学生はどういったことで気持ちが「揺れる」のか明らかにするために、すでに就活を終えた2008年1月現在大学4年生の女子に就活振り返りインタビューを実施した。

## II. インタビュー概要

なんらかの形で大学のキャリアセンターを利用し積極的に就活を行い、すでに就活を終了している総合大学(男女共学)に通う4年生(2008年1月現在)の女子学生12名に対し、2008年1月~2月にかけて「就活の振り返り」という内容の聞き取り調査をそれぞれ1時間程度行った。学生の進路内訳は一般職3名、エリア総合職4名、総合職5名である。(エリア総合職とは転勤のない総合職)あらかじめ研究の目的、質問内容などを調査対象者に伝えて承諾をとった上でインタビューと学生の1対1の面接の形で行われ、面接はICレコーダーで録音し逐語録を作成した。

### Ⅲ. 結果

#### Ⅲ-1 就活の時期と内容

就活の時期は、多くの学生が3年の秋頃から就職支援サイトへの登録開始や企業独自の会社説明会や合同説明会に参加、2月3月にエントリーシート、webテストや面接を経て4月～5月のゴールデンウィーク前後に内定を獲得していた。就職活動に関連する活動として、3年の秋以前に就職に関わる授業を選択、適性検査、インターンシップの参加など、就活中には、キャリアセンターや就職支援サイト主催のグループワークやOB.OG訪問会、エントリーシートの書き方講座、模擬面接、個別相談を利用した人などがいた。

#### Ⅲ-2 揺れの種類

学生(A～L)12名の揺れについて整理したのが表1である。

図表1 12名の揺れの整理

	準備	①	②	③	
A	イ		◎	◎	一般職
B	イ		◎	◎	一般職
C	イ		◎	◎	総合職
D	イ		◎		エリア総合職
E	イ		◎		一般職
F	ア		◎		総合職
G	イ			◎	エリア総合職
H	ア			◎	エリア総合職
I	ア			◎	総合職
J	イ	◎			エリア総合職
K	ア				総合職
L	ア				総合職

(◎が揺れのあった項目、網がけは揺れなしの者)

この場合の「揺れ」は、複数の選択肢の中から何かを選択するときの迷いではなく、二つの対極的な要因の中で、短期間でひんぱんに心の動きがありいったりきたりする葛藤状態と定義する。揺れは大きくは3つのタイプがあった。①進学か就職かという揺れ1名、②一般職か総合職かなど働き方に関する揺れ6名、③あこがれの職種と現実的な職種との間の揺れ6名である。揺れがなかった学生が2名いた。

#### Ⅲ-3 働くための気持の準備と揺れ

働くことに対する気持の準備は個人で大きく違っていたが、およそ2つのタイプがあった。

(ア)大学を卒業したら働く明確で気持の準備ができている者(イ)大学を卒業したら働くとはわかっているが気持の準備ができていない者である。

(ア)の学生の気持の準備ができている理由は主に3つあった。それは「母親が子どもの頃からフルタイムで働いており卒業したら社会で働くことは当たり前だと思っていた」、「地方から東京の大学を受験する際に卒業後東京で就職するつもりで上京(学校選択)している」、「高校の先生がいろいろな職業を経験しておりその話をしてくれた」など、母親の就労状態、地方出身者、大学入学以前の職業を考える機会の有無の3つである。(ア)の学生はすんなりと就活を始め、うち2人はなんの揺れもなかった。また、就活開始以前から、アルバイトで就職に活かせる仕事を選択する、インターンシップでの仕事体験をする、キャリアセンターや就職ネットなどが主催する就職関連のイベントに参加する、適性検査を行うなど、就職につながる活動を積極的に行っていた。

(イ)の「卒業したら働くとはわかっているが気持の準備ができていない」学生達は就活を迎えた当初、大きく足踏みをしていた。「母が専業主婦だったために女性が働くことがイメージできない」「実家が自営で会社員として働くことがリアルではない」「働き方に対して重い考え方をされていて自分を追いつめていた」など、就活をしなければならないことはわかっているためなんらかの行動は起こしながらも、前向きに就活を行うというよりはむしろ焦っていた。また「女性の仕事はCAとセールスマンしかない」「バリバリの総合職か結婚したら辞めざるを得ない一般事務しかない」「就職という大海原にポンと落とされてどこへ行けばよいかわからない」など、就職についての情報の欠如を感じていた。(イ)の学生達は就活中も、自分の働くイメージができるまで、もしくは内定をもらうまで不安な気持ちを抱えていた。

### III-4 3つの揺れの具体的内容

#### ① 進学か就職かという揺れ

気持ちの準備が (イ) のうち1名が「大学院進学か就職か」という二つの間で揺れていた。「法学部だから自分に向いているとは思わないが弁護士か検事になるしかない」という理由でなんとなく大学院進学を選び、受験に失敗しやむなく就活を始めたが、来年大学院を受けなおすかこのまま就活するのかという二つの間で揺れ続けていた。しかし、就活をする中で「やりたい仕事」を見つけたことでこの揺れは解消した。また、今回の対象ではないが、就職を避ける目的で大学院に進学したもののすぐに就職活動が始まり苦勞している大学院生、海外留学や、公務員やマスコミ試験の失敗による希望留年など揺れたまま結論を先送りする学生もいる。

#### ② 働き方に関する揺れ～一般職か総合職か

今回、内定を何社かもらった人の中で、内定先は総合職と一般職の両方だったという人が4名おり全員が (イ) であった。これらの「総合職と一般職」間の揺れは、内定をもらってから続いた。

総合職か、一般職かで揺れる理由としては、ばりばりと働きたいと思う気持ちがありながら、「体力的・精神的に不安」「中学高校と女子高だったので男性と同じように働くことがイメージできない」「親元を離れたことがなく転勤がこわい」「趣味や自分の時間がない生活は嫌だ」などがあげられた。

「親元を離れたことがなく転勤がこわい」「趣味や自分の時間がない生活は嫌だ」などがあげられた。

(イ) の学生の中に、一般職の面接で「あなたは総合職に向いている」と落とされて始めて自分の適性を考え直したという学生や、総合職と決めながらも「自分にできるのか」といった不安を抱え続けたままの学生、明らかに総合職としてやっていけるだけの実力を持ちながら一般職を選択する学生もいた。

このように (イ) の働くための気持ちの準備ができていないことは「総合職」か「一般職」とい

った「働き方」に大きく影響していた。

#### ③ あこがれの職種か現実的な職種かという揺れ

「職業や会社は無数にある」「受ける会社をどうやって決めればいいのか?」と、志望業界や志望職種が就活開始時に明確に決まっている人はほとんどおらず、業界・職種研究が進み、会社を受け、遅い人では複数の内定先を比較する中でようやく自分の企業選択理由を見つけていった。

職種の間で揺れた6名は「大好きな小売店か金融」「夢だったCAかMR」「英語を使う空港か保険」など「昔からのあこがれの職種」と「現実的な職種」との間で揺れていた。6名のうち2月の段階で大きく揺れた後に現実的な職種に方針を決めた1名以外の5名は、内定獲得後も揺れ続け、中には、現実的な仕事を選択し内定をもらいながらも、あこがれの職種に秋から再度挑戦した学生もいた。

また、業界間の揺れでは、内定をもらった後も「損保か生保」「銀行と証券」など似た業界のうちのどちらに就職するのかと悩む人もいたが、揺れというほどではなく条件の比較の中で就職先を決定していった。

②と③の働き方と具体的な職種の両方で揺れが起きている複合型の者も3名いたが、「メーカーの総合職と銀行の一般職」「サービス業の総合職と保険の一般職」などやりたい「職種」の間で揺れ、それがたまたま総合職か一般職かの違いであった。

働き方が明確で、具体的な職種間で揺れている者の揺れは、さほど深刻ではなかった。

### III-5 揺れの期間

就職か進学かで揺れていた1名は、9月に大学院の結果が出るまでの間だけでなく、就活しながらも、自分のやりたい仕事を見つける10月までは揺れていた。

一般職や総合職などの働き方で揺れた学生は、就活を始めた2月の早い段階で決めた人、両方か

ら内定をもらっても揺れている人に分かれた。就職直前のインタビュー時（1月）にも総合職で働くことに不安を抱えたままの学生もいた。

あこがれの職種と現実的な職種の間で揺れる学生は、活動開始とともにあこがれをあきらめる人もいたが、同時に多職種受けながら内定獲得後まで揺れる場合がほとんどだった。現実的な職種に内定後もあこがれの職種を受け直す学生もいた。

### III-6 揺れの解消に影響したこと

#### ① 知識を得ること

②の働き方や③の職種で揺れている学生は企業研究、OG 懇談、会社説明会などで正しい知識を得る事で自然と揺れが解消していった。また「女性の仕事は銀行の事務だけ」「自分の学部は金融に不利」「総合職は必ず転勤がある」など「思い込み」に縛られている人や、ネット上の書き込みやうわさに左右される人も多かった。知識の欠如による揺れは、「女性の仕事はたくさんある」「転勤のない総合職もある」など就活を通じて思い込みが解け、正しい知識を得たときに解消していった。

#### ② 誰かからの一言

揺れ動く彼女たちに影響を与えたものとして「OB・OG」が多く見られた。「『仕事が世に出たときにうれしかった』と聞き素敵だなと思った」「『自分しかできない事を任された時にやりがいを感じる』という言葉に惹かれた」「『結婚しても働きたい』と言うのを聞きすごいなと思った」など、つい最近まで自分と同じ大学生だった人の話は、自分も大丈夫という安心感や、社会人の具体的なイメージを持たせることを可能にしていた。

また、キャリアセンターでの個別相談、企業の面接官、アルバイト先の人とのやりとりの中で自分の考え方を整理する人も多かった。同じく就活中の友達には相談しづらく、むしろすでに社会に出ている人からの「助言」や「はげまし」が彼女達には重要であった。

親に相談している人は今回あまりいなかったが、「サービス業を受けたが『高校生でもできる』と言われた」「『なんで一般職？』と言われた」「『飛び込み営業は無理でしょ』と言われた」と親からの言葉に影響を受ける学生も多かった。

#### ③ 就活を通じて自分で解消

就活を通じて、自らいろいろな気づきを得ていく姿が浮き彫りになった。「就活サイトのグループワークで協働力を評価され自信になった」「自己分析で過去のエピソードを振り返り自分の長所に気づいた」「面接を通じいろいろな指摘をうけて他己分析していただき自分がどういう人間なのか整理できた」などのコメントが見られた。

これらの学生は就活の中で、自己分析をし、エントリーシートを書き、面接で自己PRをすることで客観的に自分を見つめ、さらに面接で誰かから評価され、内定をもらうという行動を通じ、自分なりの判断基準を整理し、自信を持ち、自らの力で自分の揺れを解消している人もいた。

## IV. おわりに

大学三年生の秋に「しゅうかつ」はやってくる。しかしその段階で女子学生すべてが社会に出て働くための準備万端とは言いがたく、多くの学生が不安との戦いであった。一方、全く揺れない学生に共通しているのは、就活開始時点で明確に「自分は社会に出て働くのだ」という気持ちの準備ができていた事である。就活の本格シーズンを迎える前に、「なぜ働くのか」「自分はこういった働き方を望むのか」といった働くための気持ちの準備を整えることが重要であると痛感した。

自分の力で解決できる学生もいるが、実際には多くの学生がそうはいかない。大学の授業やキャリアセンターのプログラムの中に、女子学生が早い段階で気軽に参加できて、「気持の準備」を整えるきっかけを得られるような仕組みを作ることが重要な課題と言えよう。